

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【公表番号】特表2016-532534(P2016-532534A)

【公表日】平成28年10月20日(2016.10.20)

【年通号数】公開・登録公報2016-060

【出願番号】特願2016-547206(P2016-547206)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/40 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/40

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月28日(2017.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上腕骨ステムと、第 1 関節型結合手段と、第 2 関節型結合手段を含む実質的にディスク形状のベース部と、を有し、前記第 1 関節型結合手段と前記第 2 関節型結合手段とが、前記上腕骨ステムを前記ベース部に連結し、

前記ベース部は、少なくとも 3 個の結合自由度によって前記上腕骨ステムに移動可能に結合され、

前記ベース部は、内部インレーを有し、1つの回転自由度が遮断されているボール・アンド・ソケット連結部を含む前記インレーによって前記上腕骨ステムに移動可能に結合され、

前記内部インレーは、回転軸を含み、前記ベース部に回転可能に結合された、肩補綴組立体において、

前記ボール・アンド・ソケット連結部のボールヘッドは、フォームフィット連結部によって前記ボール・アンド・ソケット連結部のソケットに固定され、前記インレーの回転軸からオフセットされて位置する肩補綴組立体。

【請求項 2】

前記ベース部の外縁は、多角形状か、または不規則形状である請求項 1 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 3】

前記結合は、3 個の回転自由度を有する請求項 1 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 4】

前記ベース部は、前記ボール・アンド・ソケット連結部によって前記上腕骨ステムに移動可能に結合される請求項 3 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 5】

前記ベース部は、ジンバル・マウント結合部によって前記上腕骨ステム部に移動可能に結合される請求項 3 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 6】

前記ディスク形状のベース部の円周と前記ディスク形状のベース部の周辺厚さとの比が、少なくとも 18 : 1 である請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の肩補綴組立体。

【請求項 7】

前記ボール - アンド - ソケット連結部の前記第 2 関節型結合手段は、球形関節キャビティまたはソケットを備え、前記球形関節キャビティは、溝を有し、前記ソケットは、チャンネルを有し、

前記溝または前記チャンネルは、前記内部インレーの回転軸と前記ボール - アンド - ソケット連結部の回転中心とを連結する仮想線に平行にまたは垂直に配向される請求項 1 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 8】

前記ボール - アンド - ソケット連結部は、球形キャップの形態よりなるボールヘッドを含み、前記上腕骨ステムを前記ボールヘッドと連結する連結インターフェースが前記ボールヘッドのベース上に配置され、前記連結インターフェースは、前記ボールヘッドのベースの中心からオフセットされて位置する請求項 1 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 9】

前記ボールヘッドは、球形セグメントの形態であり、前記ボール - アンド - ソケット連結部のソケットは、前記ボールヘッドの最大直径よりは小さいが、前記ボールヘッドの面の間の距離よりは大きい開口を有する請求項 8 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 10】

前記ベース部は、前記少なくとも 3 個の結合自由度の回転中心と前記ベース部のベース領域との間の距離が 15 mm 未満になるような寸法を有する請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載の肩補綴組立体。

【請求項 11】

前記ボールヘッドと前記上腕骨ステムとの間に配置される実質的に Z 形状のアダプターを含む請求項 3 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 12】

前記アダプターは、2 個のテーパー端部を含み、前記テーパー端部の中心軸は、一方向にオフセットされ、互いに平行に配向されるか、または一方向にオフセットされて互いに鋭角で配向される請求項 11 に記載の肩補綴組立体。

【請求項 13】

前記ベース部の縁部の少なくとも一部分は、増加された厚さを含む請求項 1 乃至 12 のいずれか 1 項に記載の肩補綴組立体。

【請求項 14】

近位面付きのベース部および円周付きの外縁を含み、前記近位面は、高さまたは深さがある凹面、凸面または円錐面を有し、前記円周対高さの比または円周対深さの比は、少なくとも 15 : 1、好ましくは、20 : 1 より大きい請求項 1 乃至 13 のいずれか 1 項に記載の肩補綴組立体。